泰日工業大学 "インダストリーセミナー"開講

Thai-Nichi Institute of Technology "Industrial seminar"

Kaizen by VPM(Value Producing Management)

泰日工業大学 工業経営管理学部大学院の学生に対し、正規授業として講義

3月29日　講師 テクノ経営総合研究所　経営コンサルタント　河田 真一

●日曜日の昼下がり、真剣なまなざしが注がれる。居眠りする者は誰一人としていない。タイ・バンコク・泰日工業大学における授業風景の一コマである。講義は英語行われ、泰日大学のDr. Damlongkiat先生がタイ語に翻訳・補足される。インダストリーセミナーと銘打った講義は、工業経営管理学部の大学院生を対象とするもの。大学院は社会人を対象とした講座で土・日曜日に開講されている。学生は自動車産業の下請企業で働く労働者が多く、自費で休日に勉強しようという意欲のある若者たちが中心である。授業で扱われるテーマは日常の仕事に直結した問題だ。３時間の講義を受講して、レポートに合格すれば１単位が与えられる。

●泰日工業大学は、タイ・日間の友好と産業の人材育成を目的とする「泰日経済技術振興会」が2007年６月バンコクに開校したもので、タイ人日本留学生ＯＢが設立の主体となった。大学の理念は、日本式"ものづくり"と実習に重点をおいた実践教育による、タイ産業界の技術・技能レベルの向上。優秀なエンジニアや「ものづくり」経営人材の輩出をねらいとしている。

●世界同時不況の影響により厳しさを見せているタイ産業界。タイはGDPの60％以上を輸出に依存しているため、輸出量の減速はただちに製造業に甚大な影響を及ぼす。主要な輸出国である対中国向けの輸出は、2008年12月にマイナス40％という大幅な減少となった。特に、電子産業を中心に生産調整や雇用調整が本格化、失業者は200万人に達するという見通しが出ており、"ものづくり"企業においても厳しい事態に立ち向かうコストダウンや生産性向上の施策が求められている。

●そういった意味で、今回の授業もテクノ経営が永年にわたり取り組んできたＶＰＭ(Value Producing Management)の考え方をブレークダウンした講義であった。ＶＰＭは人に焦点をあてた生産性向上の活動。人の思考と動きが変化しなければ生産性の高い工場はできないことを強調する。現在の"ものづくり"はどの国においても労働生産性を高め、付加価値をつける必要がある。低賃金で生産することのみを追求し、生産性の向上を忘れた工場は生き残ることができない。

●今回の参加者は約40名ではあったが、日本の"ものづくり"におけるKAIZENのエッセンスが確かに伝承されたと考えている。ご縁により関わることになった仏教国タイの一日も早い景気回復を願うものである。テクノ経営は、これからも泰日大学との連携を通じて、タイ産業界を支援する一助となることを切に願っている。

中央がダムロンキアット先生